

平成28年度 河内総合病院 指標

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	496	111	71	138	245	262	612	905	803	190

平成28年4月～平成29年3月に退院された患者様の年齢階級別患者数です。当院を利用している患者様は、昨年度同様に70歳代が最多で、次いで80歳代となっています。

70歳以上の患者様は、全体の約5割を占めています。

また、10歳未満の496人の中には、院内出生児の入院39人を含んでいます。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）

診療科コード: 10		診療科名: 内科					
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	平均年齢	転院率	
060100xx99xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	75	1.52	3.00	62.69	0%	
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎	64	62.89	21.25	82.78	7.81%	
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症	31	24.13	12.43	76.94	9.68%	

症例数877例において小腸大腸の良性疾患の診断群が最多となっています。平均年齢は62.69歳と比較的低くなっています。これは、主に、健康診断後の検査入院に起因するものです。次いで誤嚥性肺炎の診断群となっています。平均年齢は82.78歳と高齢者の方が多くなっています。

(短期滞在手術等入院基本料3の内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術の患者様は除外しています。)

診療科コード: 60		診療科名: 消化器科					
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	平均年齢	転院率	
060100xx99xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	129	1.05	3.00	61.88	0%	
060185xx99x0xx	潰瘍性大腸炎	19	2.84	12.63	49.37	10.53%	
060102xx99xxxx	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	13	5.62	7.89	58.77	0%	

症例数329例において約40%が小腸大腸の良性疾患となっています。内科と同様に、平均年齢61.88歳と低く、検査入院と考えられます。上位3診断群では、いずれも平均年齢が低いのがわかります。

(短期滞在手術等入院基本料3の内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術の患者様は除外しています。)

診療科コード: 70		診療科名: 循環器科					
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	平均年齢	転院率	
050130xx99000x	心不全	72	34.97	17.95	77.85	1.39%	
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患	66	4.03	3.06	67.41	3.03%	
050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患	63	8.06	4.71	68.83	0%	

症例数744例における最多症例は心不全の入院となっています。慢性心不全の急性増悪と考えられます。2番目、3番目には、狭心症に対する治療前、治療後の心臓カテーテル検査の入院、および血管内治療目的の入院となっています。

当院では24時間の救急対応を行っています。

また、循環器疾患の重要なリスクファクターと考えられている睡眠時無呼吸症候群に対する精密検査も実施しています。

診療科コード: 100		診療科名: 小児科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
040090xxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	85	4.15	6.02	0.99	4.71%
150010xxxxx0xx	ウイルス性腸炎	69	3.12	5.50	4.59	0%
0400801199x00x	肺炎等(1歳以上15歳未満)	52	4.85	5.79	6.15	5.77%
<p>症例数518例のなかで、最多症例は急性気管支炎の呼吸器疾患となっています。平均年齢0.99歳と乳児に多い症例となっています。次いで多いのは、ノロウイルスなどによる胃腸炎となっています。乳幼児に多い症例と考えられます。</p> <p>また、3番目には、肺炎の診断群が挙げられます。平均年齢は6.15歳と幼児に多くなっています。</p>						

診療科コード: 110		診療科名: 外科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
060100xx99xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	10	1.20	3.00	62.10	0%
060035xx01000x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	5	19.20	15.92	72.40	0%
090010xx01x3xx	乳房の悪性腫瘍	5	31.20	18.03	69.60	0%
<p>症例数124例において、小腸大腸の良性疾患における検査入院が最多となっています。大腸、乳房の悪性腫瘍に対する症例も挙げられます。</p> <p>また、内視鏡による胃瘻造設や外来化学療法まで最新の標準的な治療を提供しています。(短期滞在手術等入院基本料3のヘルニア手術・鼠径ヘルニアの患者様は除外しています。)</p>						

診療科コード: 120		診療科名: 整形外科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折	110	41.50	27.63	79.66	30.91%
160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)	46	32.89	20.57	77.39	8.7%
160760xx97xx0x	前腕の骨折	36	9.03	5.49	50.89	0%
<p>症例数457例において、股関節大腿部の骨折で、外科的手術を施行している診断群が3分の1を占めています。平均年齢が79.66歳と高齢者に多いと考えられます。</p> <p>次いで胸腰椎の損傷が挙げられますが、保存的治療となっており、平均在院日数も32.89日と長くなっています。</p> <p>3番目には前腕の骨折が挙げられますが、平均年齢は、1位、2位と比較すると、.50.89歳と年齢層に差異がみられます。</p>						

診療科コード: 130		診療科名: 形成外科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
020230xx97x0xx	眼瞼下垂	13	5.46	3.44	69.23	0%
160200xx0200xx	顔面損傷(口腔、咽頭損傷を含む。)	13	5.00	5.80	35.54	0%
080011xx99xxxx	急性膿皮症	9	19.89	11.97	68.33	0%
<p>症例数129例において、最多症例は、眼瞼下垂、顔面の損傷となっています。顔面損傷においては、観血的手術を行っています。平均年齢は35.54歳と若年層にみられます。</p>						

診療科コード: 150		診療科名: 脳神経外科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)	44	24.36	16.54	70.73	31.82%
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷	37	8.05	7.52	46.03	8.11%
010230xx99x00x	てんかん	25	8.64	7.12	59.92	8%

症例数501例において、脳梗塞の診断群が最多となっています。これは、JCSが10未満の患者様ですが、エダラボンによる治療となっています。31.82%の方が回復期リハビリテーション病院等へ転院しています。

次いで、頭蓋内損傷が挙げられます。乳幼児、学童の頭部打撲が含まれるため平均年齢は46.03歳と若年となっています。3番目には、てんかんの症例が挙げられます。

診療科コード: 170		診療科名: 心臓血管外科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
050050xx0151xx	狭心症、慢性虚血性心疾患	3	80.00	27.95	68.00	0%
050130xx99000x	心不全	3	16.33	17.95	76.67	0%
050163xx99000x	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	3	17.67	8.76	77.33	33.33%

症例数32例と少ない診療科となっていますが、ペースメーカー交換術の入院から、心臓の弁置換、弁形成術など重篤な患者様を受け入れています。

開心術以外では、末梢動脈閉塞症・下肢静脈瘤に対する治療も行っています。

診療科コード: 220		診療科名: 産婦人科				
DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	平均年齢	転院率
120140xxxxxxxx	流産	24	2.25	2.43	32.83	0%
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(出生時体重2500g以上)	23	7.96	6.18	0.00	4.35%
120300xxxxxxxx	人工授精に関する合併症	12	8.17	8.93	35.67	0%

症例数122例において、流産での入院が最多となっています。妊娠6週ぐらいから10週目の患者様が多くなっています。

自然頭位分娩の患者様は除外しています。子宮筋腫、子宮癌などの婦人科疾患についても、MRIなど最新機器による診断、治療を行っています。

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類 基準	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	5	1	1	1	3	2	1	7
大腸癌	3	6	2	0	9	5	1	7
乳癌	3	3	0	1	4	5	1	7
肺癌	0	1	0	1	3	3	1	7
肝癌	0	0	1	0	5	11	1	7

集計期間中に退院した実患者数を集計しています。「初発」の病期分類は、UICC病期分類に基づいたものです。日本で最も罹患率の高い5つのがん(胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌)の病期(Stage)ごとの症例数を示しています。

当院では、内視鏡的治療、手術、抗がん剤治療など患者様に合わせた治療法を提供しています。患者数としては、大腸癌が最多、次いで胃癌、乳癌となっています。

肝癌において再発が多いのは、初回治療が完了した後の経過観察目的の患者様を受け入れている割合が高いためと考えられます。

病期分類不明の症例については、治療前の検査入院のため、入院中に検査結果が出なかったため、分類ができなかったと考えられます。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均在院日数	平均年齢
重症度0	24	20.25	53.67
重症度1	29	24.79	80.41
重症度2	23	23.74	82.57
重症度3	18	31.78	83.39
重症度4	8	110.88	83.88
重症度5	0	0	0
不明	0	0	0

この集計における成人とは、15歳以上の患者様が対象となります。

市中肺炎とは、普段の生活の中で罹患した肺炎を指します。

重症度は、市中肺炎ガイドラインによる重症度分類システム(A-DROPスコア)により分類しています。

当院における症例数では重症度1が最も多く、全体の約28%を占めています。重症度4における平均在院日数が極端に長いのは長期入院の患者様が該当したためと考えられます。

脳梗塞のICD10別患者数

ICD10	傷病名	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群	3日以内	15	6.2	68.07	0
		その他	0	0	0	0
I63\$	脳梗塞	3日以内	161	35.15	74.14	26.9
		その他	10	56.9	71.2	2.92
I65\$	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	4	17.5	65.25	0
		その他	10	8	71.1	0
I66\$	脳動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	0	0	0	0
		その他	1	4	75	0

ICD-10とは、疾病及び関連保険問題の国際統計分類の略称です。
 当院では、脳卒中の超急性期の治療、t-PA静注療法や脳血管内治療、開頭術など最新治療に積極的に取り組んでいます。
 脳卒中は、発症後できるだけ早期における専門病院での治療が、機能的な予後を改善することにつながります。
 当院では、約90%の患者様が発症から3日以内に治療を開始しています。治療後は、早期リハビリテーションを開始し、発症後の後遺症の軽減に取り組んでいます。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）

診療科コード: 10		診療科名: 内科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	54	0.80	2.52	66.44	0%
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	39	2.46	9.64	70.56	2.56%
K610-3	内シャント又は外シャント設置術	14	14.71	36.50	71.93	0%

内科では大腸ポリープに対する内視鏡的ポリープ・粘膜切除術が最多となっています。ポリープ切除目的の短期入院となっています。
 次いで、透析シャント狭窄に対する経皮的シャント拡張術・血栓除去術となっています。また、末期腎不全の患者様に対するシャント設置術が3番目に挙げられます。
 当院では透析センターにおいて最善の治療を提供しています。

診療科コード: 60		診療科名: 消化器科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	88	0.03	2.08	63.32	0%
K6152	血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(選択的動脈化学塞栓術)	11	1.91	8.36	77.91	0%
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm以上)	8	0.00	2.25	61.13	0%

消化器科では、内科同様、大腸ポリープに対する内視鏡的ポリープ・粘膜切除術が最多となっています。
 2番目の血管塞栓術は肝細胞癌に対する肝動脈塞栓療法(TAE)となっています。消化管の悪性腫瘍に対しては、外科との連携によりガイドラインに準じた治療が行えるよう体制をとっています。

診療科コード: 70		診療科名: 循環器科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	55	6.40	5.15	68.95	0%
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)	33	0.09	17.73	65.82	0%
K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他)	26	4.42	3.12	66.69	0%

循環器科では、経皮的冠動脈ステント留置術(その他)が最多となっています。そのうちの7割強が狭心症に対するものとなっています。
 2番目の経皮的冠動脈ステント留置術(不安定狭心症)は5割が急性心筋梗塞に対するものとなっています。
 ペースメーカー移植術も当診療科で実施しています。また心房細動に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術も行っています。

診療科コード: 100		診療科名: 小児科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
-	-	-	-	-	-	-

小児科では手術にいたるケースがほとんどないため、症例件数には挙げておりません。

診療科コード: 110		診療科名: 外科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K6335	鼠径ヘルニア手術	18	0.89	6.89	65.28	0%
K7193	結腸切除術(全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)	9	3.33	23.33	71.11	0%
K4765	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	8	1.88	38.25	66.25	0%

外科では、鼠径ヘルニア手術が最多となっています。次いで結腸切除術、乳癌に対する手術となっています。
 消化器がんについては、治療ガイドラインに沿って患者様に最善の手術を提供しています。

診療科コード: 120		診療科名: 整形外科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K0461	骨折観血的手術(大腿)	77	4.75	33.65	77.35	29.87%
K0462	骨折観血的手術(前腕)	48	3.42	31.96	69.42	2.08%
K0811	人工骨頭挿入術(股)	44	5.61	41.48	79.68	29.55%

整形外科では、大腿骨骨折観血的手術が最多となっています。平均年齢77.35歳と高齢者に多くなっています。
 2番目に前腕骨骨折観血的手術が挙げられます。大腿骨骨折と比べると平均年齢は69.42歳と低くなっています。
 3番目の人工骨頭挿入術も大腿骨頸部骨折に対するもので平均年齢も79.68歳と高くなっています。
 高齢者の大腿骨骨折においては、早期からリハビリテーションを開始しています。リハビリ病院への転院も考慮しています。

診療科コード: 130		診療科名: 形成外科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K016	動脈(皮)弁術	15	19.67	42.40	71.27	6.67%
K2191	眼瞼下垂症手術1.眼瞼挙筋前転法	11	0.36	4.09	69.18	0%
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径6cm以上)	7	2.29	7.71	45.14	0%

形成外科では、皮膚欠損創、褥瘡に対する動脈(皮)弁術が最多となっています。平均年齢が71.27歳と高いのは、高齢者の褥瘡によるものと考えられます。
2番目の眼瞼下垂症手術は、平均年齢69.18歳と高齢者に多くなっています。
当科では、体表面の腫瘍や外傷、神経縫合まで多岐に渡る手術を実施しています。

れます。

診療科コード: 150		診療科名: 脳神経外科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	31	2.94	25.45	77.65	6.45%
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	20	0.90	70.00	67.45	60%
K1643	頭蓋内血腫除去術(開頭)(脳内)	13	0.31	45.54	68.69	38.46%

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術が最多となっています。これは、外傷による硬膜下血腫に対するものがほとんどです。次いで、脳動脈瘤頸部クリッピング術となっています。脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血に対する手術となっています。
3番目に、頭蓋内血腫除去術となっています。いずれの手術において、平均術前日数からも、緊急性が高いと考えられます。

診療科コード: 170		診療科名: 心臓血管外科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺不使用)(2吻合以上)	5	7.60	47.60	68.60	0%
K5522	冠動脈、大動脈バイパス移植術(2吻合以上)	4	10.25	19.75	67.50	0%
K5542	弁形成術(2弁)	3	30.00	38.00	67.33	33.33%

心臓血管外科では、冠動脈、大動脈バイパス移植術、弁形成術と心臓に係る開心術が上位に挙げられます。
可能な限り人工心肺を用いず、心臓を動かしたままで手術を行っています。これは脳への合併症のリスクを考慮しています。
開心術以外では、下肢静脈瘤手術も行っています。

診療科コード: 220		診療科名: 産婦人科				
Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	平均年齢	転院率
K9091	流産手術(妊娠11週まで)	21	1.24	0.00	32.67	0%
K8881	子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(開腹)	9	1.22	8.22	54.78	0%
K8654	子宮脱手術(膣壁形成手術及び子宮全摘術)(膣式、腹式)	8	2.25	8.00	65.75	0%

産婦人科では、流産手術(妊娠11週まで)が最多となっています。
また、子宮筋腫に対する手術や、子宮外妊娠における手術など婦人科に雇うものから産科に雇うものまで幅広い治療を行っています。

その他 (DIC、敗血症、その他の真菌症及び手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0%
		異なる	2	0.05%
180010	敗血症	同一	13	0.34%
		異なる	17	0.45%
180035	その他の真菌感染症	同一	1	0.03%
		異なる	3	0.08%
180040	手術・処置等の合併症	同一	42	1.1%
		異なる	2	0.05%

当院では、DIC(播種性血管内凝固症候群)、敗血症、その他の真菌感染症、手術・処置等の合併症を挙げています。

DPCコードで分類される傷病名とは別に、入院の契機となった病名がつけられています。DPC病名と入院契機病名が同一か、異なるかにより集計しています。

DIC、敗血症について、入院契機病名と異なる場合、契機病名として挙げられるのは、消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、脳卒中とさまざまな症例となっています。

その他の真菌感染症では、入院契機がくも膜下出血、敗血症、急性大腸炎と異なる疾患となっています。

手術・処置等の合併症については、すべての症例において、DPC病名と入院契機病名が同一となっています。これは、手術・処置などの合併症を主訴として入院し、その治療を受けられたと考えられます。